

『ぱんだより』

※パンダからのお便りという意味で「ぱんだより」と名付けました。
 スパークスのアジア地域における情報発信レポート

第73号(2011年2月28日)「中国市場動向2011年1月」



想定内の利上げ

中国人民銀行(中央銀行)は2月8日、金融機関の貸出と預金の基準金利を2月9日からそれぞれ0.25%引き上げると発表しました。これにより、貸出金利は6.06%、預金金利は3.00%となりました。今回の利上げは昨年10月以降では3度目となりますが、昨年からの引き締め観測がすでに広がっているため、想定内の利上げとも言えます。

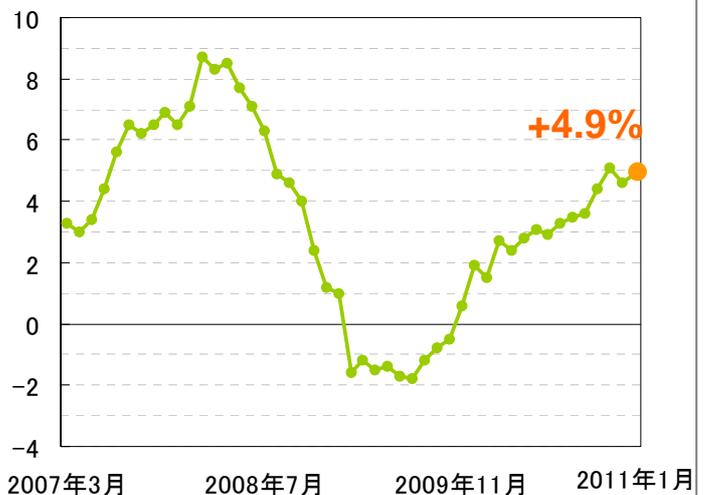
利上げの背景としては、インフレの深刻化が挙げられます。昨年11月に消費者物価指数が5.1%と高水準を達し、庶民の生活を直撃するレベルまで上昇しました。

直近の追加利上げ可能性が後退

2011年1月の消費者物価指数が前年同月比4.9%と、市場の予想より低い水準となりました。さらに2011年の旧正月が2010年よりも早い時期だったことを考慮すると、物価上昇の勢いが鈍化していることが分かります。

中国の旧正月は中国人にとって、一年の中で一番大事なイベントであり、旧正月の前の2週間が消費欲が最も旺盛な時期となります。ゆえに、中国の小売業者にとって旧正月の前の2週間は、値上げしやすい時期とも言えます。右図をご参考いただければ、2011年の旧正月の消費ピークが1月中旬にあるため、今回の消費者物価指数がそれほど高いとも言えなくなります。インフレ急進の一息により、ここから数ヶ月間において、追加利上げの可能性は後退すると思われます。

(%) 消費者物価指数(前年同月比)



出所: 中国国家统计局

統計期間により、消費ピークは1ヶ月のズレが生じました。

	消費ピーク	旧正月
2010年	2月1日～2月12日	2月14日
2011年	1月20日～2月1日	2月3日

スパークス・アセット・マネジメント作成



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『ぱんだより』

スパークスのアジア地域における情報発信レポート



インフレの抑制策

中国インフレの抑制策の一つとして、人民元レートの切上げが有効な方法と考えられます。通貨レートの切上げにより、海外からの輸入品物価の低下に繋がるほか、海外資金流入抑制策にもなります。さらに、現時点の人民元レートはまだ実態経済と比べ、大幅に割安な水準にあるため、人民元を切上げる余地が大きいと思われます。

しかし、大幅の切上げにより、中国製品の輸出競争力を弱めることとなり、輸出産業においては膨大な失業者が出る恐れがあります。ただ、高水準のインフレを放置することも、庶民の不満を募ることとなり、社会的な不安定に繋がります。

中国経済の中長期的な見通しが依然として明るいと考えておりますが、どのように目の前の社会問題を解決するか中国政府は大きなジレンマに陥っているのではないのでしょうか。



《主要株価推移》(各市場の直近1年間)



(編集後記) 2011年2月21日、中国から貸与された2頭のパンダが上野動物園に到着しました。パンダは本レポートのマスコットでもあり、アジアの情報発信レポートとして上野のパンダ達と一緒に、広く皆様に愛されるような存在になるように情報提供に心がけてまいります。引き続きよろしくお祈りいたします。

(告られタイ)



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。